
詩『外へ導く君の手』

もりそば

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩『外へ導く君の手』

【Nコード】

N3367Q

【作者名】

もりそば

【あらすじ】

詩だと思う。きっと詩。何気なく書いたのだが、明らかにこれはもうs r y

目覚め その泥の中で私は手を動かす足を動かす

気だるい斜光が 白い月に被さって おぼろげに世界を見る

おはようございます 君はそう言って 薄暗がりを照らした

早朝 午前 寒い ぶるつと震え 一段深く泥の中へ

あと五分 もう一段深く泥の中
定型文で夢へと逃げる

でも君は 泥の中から私を引き起こして

天気良いです と朗らかに言う

だろうね と私はあくび

快晴です と外を指差して

見なくても分かる と二度目のあくび

お参りに行きましょう 君は両手を合わせ

どこへ？ と私は首を捻る

神社へ 君の声

カーテンからの直射日光が 君の笑顔と重なって
眼が離せなくなりそうで ワタシは慌てて目を逸らす

きっと 太陽が眩しかったからだろう
誤魔化しになってない誤魔化し

だから 枷の掛かった頭で考えて
五分待て

定型文で分かったと言う 私の弱さ
君の声を 私は否定できない

なら早く支度しましょう

そう言って私の手を引く君の手は 薄暗がりから私を引き上げる

じっとその手を見て 君の瞳を見て その中へ視線を沈める
夜色の瞳が 疑問に揺れて

ふっ と笑って首を振る
なんでもない

何を思った？
言えるわけが無い

何気なく私を引く手が 外の世界へ連れ出してくれる君が
代え難いほど愛しいなどと

正面切って言えるほど 私は 私という存在に自信が無い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3367q/>

詩『外へ導く君の手』

2011年1月26日11時11分発行